いのちと地域を守る

むすび塾

仙台市太白区・ロイヤルシャトー長町

マンションに住むお年寄りたちが集まり、防災対策を話し合った茶話会

ことし5月にむすび塾を開催した仙台市太白区のマンション「ロイヤルシャトー長町」（88戸）では、災害時に高齢者の避難をどう支援するかを考える「ひまわりの会」が発足した。2月から隔月で茶話会を開いて、お年寄りと交流したり、意見交換したりして合った。

「避難階段に手すりを付けてほしい」「いざという時の安否確認のために、あらかじめ居住者同士で顔を預けられるようにしたい」などの意見が出された。

意見は管理組合の理事会にも報告し、マンション全体の防災対策に反映させる。

世話人代表の尾崎正隆さん（69）は「参加しない人に、どう働き掛けていくかが課題だ。訪問したり、菓子を配ったりして、出席しやすい雰囲気づくりに努めたい」と話す。

茶話会 高齢者らが交流

むすび塾　その後

東松島市大曲貝田行政区

老人ク津波避難訓練

昨年5月に第1回のむすび塾を開催した東松島市大曲貝田行政区では、安全な避難手段の確保や、高齢者を対象とした避難訓練などの取り組みが進む。

5月29日朝、東松島市の大曲地区センター。地域の老人クラブの60代～80代のメンバー26人が集まり、津波避難訓練を始めた。向かう先は約1・3キロほど内陸側の三陸自動車道の避難階段だ。

貝田行政区周辺は平たんな住宅地や田んぼが広がる。津波の時に逃げられる高台が近くにないことから、住民らが避難階段の整備を要望し、国土交通省が「ことし月に設置する」と回答した。

訓練は、階段の場所や逃げるルートを確認することが目的だ。住民減災会議の「ないかどうか」確認しながら歩き、約20分で到着した。歩くのが困難な参加者6人は車で移動し、階段を見学した。

案内役を務めた貝田行政区長の中山勝又さん（68）は「最初はためらっていた人もいたが、無事に到着できてよかった。常に防災意識を持てるように定期的に開催したい」と話す。

行政区では、むすび塾で夜間避難の問題を指摘されたことを踏まえ、市の補助金を活用し、避難の夜間照明の設置なども検討する。中山さんは「住民同士で話し合い、犠牲を出さない地域を築きたい」と話った。

三陸自動車道に設けられた避難階段を見学するお年寄りたち

巡回ワークショップ「むすび塾」の足跡

	開催地
第1回	東松島市大曲貝田行政区
2	多賀城市・東北電機製造
3	宮城県村田町足立西行政区
4	宮城県女川町桐ケ崎仮設住宅団地
5	岩沼市・南浜中央病院
6	気仙沼市要害地区
7	石巻市・石巻みつほ幼稚園・第二幼稚園
8	宮城県山元町花釜行政区
9	仙台市青葉区荒巻地区
10	宮城県南三陸町歌津中
11	仙台市太白区・ロイヤルシャトー長町
12	宮城県七ケ浜町花渕浜地区
13	秋田県男鹿市荒町町内会
14	石巻市鮎川小
15	名取市閖上上町町内会
全国編	愛知県田原市堀切校区
	高知県四万十町興津地区
	東京都品川区八潮団地
	三重県尾鷲市川原町自治会
	静岡県下田市吉佐美地区
海外編	インドネシア・バンダアチェ市ムラクサ地区
	インドネシア・ラユン村

宮城県村田町足立西行政区

住民主役で共助を探る

宮城県村田町足立西行政区では今月22日、自主防災会が発足した。昨年6月のむすび塾では、災害時、行政に頼らない自主的な備えが必要との認識を共有した。今後、地域独自に避難訓練を実施するなど災害対策を進める。

山間部に位置する足立西行政区は震災時、ライフラインの寸断のほか、行政の情報伝達や支援の遅れといった問題に直面した。住民の約半数を占める高齢者の安否確認や避難支援の必要性も浮き彫りとなった。周辺では過去に土砂災害が発生し、山間部ならではの課題を多く抱える。

自主防災会発足式には、地区の役員や消防団員ら14人が出席。会長に就任した小室正行政区長（68）は「ライフライン停止に備えた自家発電機の整備や、歩行困難な高齢者の避難支援など、具体的な対応を模索したい」と決意を語った。

自主防災会は今後、地区との代表者や役割分担を決めた上で、避難訓練などを行う。住民からは「外からの支援が来るまで、地区住民が生き延びられるようにしよう」との声が上がった。

地域には村田ダムがある。震災では、須賀川市の藤沼ダムが決壊し、流域の住民8人が死亡・行方不明になった。心配する住民もいるため、自主防災会の役員が現場、ダムの周囲を巡回した。

村田ダムの様子を確認する自主防災会の役員ら

これまで紙面に掲載した「むすび塾」の詳報は、河北新報社ホームページのトップページにある「むすび塾・防災減災」のバナーから専ページに入って、読むことができます。